

科目名	経済理論特講	担当者	セコ 瀬古 ミキ 美喜	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目では、前期に経済学の基本的な考え方を、後期にはそれをさらに詳しく、ミクロ経済学と、マクロ経済学の両方から学ぶ。ミクロ経済学は、消費者や企業などの個別経済主体の中から、代表的な一つをとりあげ、その行動を顕微鏡的に考察し、経済法則を確立しようと言うものであって、結果的に価格現象の解明が中心となる。マクロ経済学は、その分析の基本単位に一国全体の所得水準、失業率、一般物価水準などの集計量を据える、全体としての経済システムの動きを究明する。</p>		
到達目標	<p>経済学の本質を身につけること。経済学的な考え方や、経済学的分析手法を学ぶことによって、経済学は役に立つということを、会得すること。</p>		
学修方法	<p>各課題に対応した、「参考図書」の特に①を熟読して、「教材」の要点やまとめをまず理解すること。さらに、「教材」の練習問題も、できるだけ、解答を見ないで、自力で解いてみる。それから、レポート課題を解いてみるとよい。</p>		
スケジュール	<p>各レポート課題の所定の提出時期よりも、かなり前から、計画的にレポート作成の準備を進めて、提出時期に、きちんと時間的な余裕を持って提出すること。レポートの添削や、質問は、提出の締め切りまで、随時、受け付ける。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	きちんとレポート課題の内容を正しく理解して、解答の根拠を論理的に説明できているかどうかを見る。
	平常評価	10%	何回かレポート添削を行う場合、前回指摘した点を、きちんと理解して、解答を正しく修正しているかどうかを見る。
履修者への要望	<p>各課題で、どのような点を本質的に理解していることが要請されているか、よく考えること。抽象的な思考と、現実の経済問題との関連性の双方に留意して答えるようにすること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 瀬古美喜・渡辺真知子 教材名： 『完全マスター ゼミナール経済学入門』第3版（日本経済新聞社，2009年） ISBN：978-4-53-213363-4 2,200円+税
	本書は、現実の経済を意識しつつ、経済学の基本的な考え方や、ミクロ・マクロ経済学、公共経済学、国際経済学、経済発展、経済体制の問題まで幅広く扱った、経済理論としての論理性を保った演習書である。経済学の基本書ではあるが、より専門的な本との掛け橋となる事を狙いとして書かれている。各章は、要点のまとめや、練習問題で構成されており、自習書として使えることを、念頭においたものである。前期は、主に、経済学という学問の考え方を学ぶために、本書の前半部分を用いる。
参考図書	福岡正夫『ゼミナール経済学入門：第4版』（日本経済新聞社，2008年） ISBN:978-4-53-213361-0 3,500円+税 内藤英憲・瀬古美喜『経済学原論：第3版』（中央経済社，1996年） ISBN:978-4-50-262495-7 3,786円+税
履修上のポイント	経済学の基本的な考え方を身に付けることが狙いである。現実の経済では、果たして市場メカニズムが十分に機能しているか、もし機能していなかったとしたら、どのような経済政策を取るべきか、また、その理論的な根拠はどこにあるかといったことを学ぶ。自分でどの程度理解したかチェックするために、教材の解答をみないで、問題を解いて見ると良い。
レポート課題 1	「稀少性は、市場機構が機能するというを要する」という主張は真か偽か、根拠を持って示せ。 留意点 ：経済学は何を研究する学問か、稀少性と選択という問題の本質はどこにあるのかということ、良く考えること。
レポート課題 2	実証的経済学と、規範的経済学は、各々どのようなことを分析する経済学であるか、具体的な例を挙げて説明せよ。 留意点 ：同じ一つの経済現象であっても、実証的分析と規範的分析では、分析の力点が異なることに注意すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 瀬古美喜・渡辺真知子 教材名： 『完全マスター ゼミナール経済学入門』第3版（日本経済新聞社，2009年） ISBN：978-4-53-213363-4 2,200円+税
	本書は、現実の経済を意識しつつ、経済学の基本的な考え方や、ミクロ・マクロ経済学、公共経済学、国際経済学、経済発展、経済体制の問題まで幅広く扱った、経済理論としての論理性を保った演習書である。経済学の基本書ではあるが、より専門的な本との掛け橋となる事を狙いとして書かれている。各章は、要点のまとめや、練習問題で構成されており、自習書として使えることを、念頭においたものである。前期は、主に、経済学という学問の考え方を学ぶために、本書の前半部分を用いる。
参考図書	福岡正夫『ゼミナール経済学入門：第4版』（日本経済新聞社，2008年） ISBN:978-4-53-213361-0 3,500円+税 内藤英憲・瀬古美喜『経済学原論：第3版』（中央経済社，1996年） ISBN:978-4-50-262495-7 3,786円+税
履修上のポイント	前期に学んだ経済学の基本的な考え方を基に、より詳しくミクロ、マクロ経済学に関して学ぶ。実際に問題を解くことによって、経済理論モデルの構築の仕方や、その応用の仕方を勉強する。弱干の数学的な計算問題も解けるように勉強することが望ましい。
レポート課題 1	個別競争企業の（短期）供給曲線を、限界費用曲線、平均可変費用曲線を描いたグラフを用いて導け。また、そのとき、個別競争企業が満たすべき均衡条件を明記せよ。さらに、導出したグラフで、損益分岐点と操業停止点を明示せよ。 留意点 ：特に、教材の第13章、14章や、参考文献（福岡正夫）の第13章や第14章を、参照すること。これは、マクロ経済学の課題である。
レポート課題 2	IS・LMモデルとは何か説明せよ。また、財政政策や金融政策を、どのように、このモデルを用いて分析するのか示せ。 留意点 ：特に、教材の第13章、14章や、参考文献（福岡正夫）の第13章や第14章を、参照すること。これは、マクロ経済学の課題である。